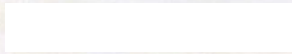


一般競争入札公告

会計法第29条の6第2項に基づき、下記の事項について一般競争に付します。



記

1. 一般競争入札に付する事項

(1) 事業名 新型インフルエンザ感染防護資器材及びオゾン発生器一式

(2) 事業の概要 鳥インフルエンザウィルス由来の新亜型ウィルスが新型インフルエンザ化し、ヒト-ヒト間の伝搬力を獲得した場合、人類は新亜型ウィルスに免疫を持たないため、症状が重症化するのみならず、大流行することにより、大きな健康被害(重症患者、死亡者)が発生することが危惧されている。また、2次的にも社会活動・社会機能の停滞・低下を招くため、多方面での被害が予測される。

現在、高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)の患者の発生は、世界保健機構(WHO)の公表によれば、平成15年11月以降、発生国12か国、患者数337人うち死亡者207人(平成19年12月現在)と増加の一途を辿っており、新型インフルエンザの発生に備えた対応が世界的に急務となる中、我が国においても、関係省庁対策会議等を通じ、政府一丸となって対策を推進しているところである。

これを受け、社会機能を維持するために不可欠な消防機関を所管する消防庁においても、新型インフルエンザ発生時に、各都道府県、消防機関、関係省庁等の関係機関との連絡・調整を的確に行い、適切且つ迅速に対処するための応急体制を整備することが必要となる。

新型インフルエンザは外国で感染し、帰国した者から感染する確率が高いことから、今回、日本の主要な空港である新東京国際空港、中部国際空港、関西国際空港福岡国際空港を管轄する消防機関に新型インフルエンザ感染防護資器材及びオゾン発生器一式を配備し、当該事案が発生した場合に、救急隊員が傷病者からの感染を防止とともに、救急自動車を介した間接的感染を防止するために適正な消毒を行うことを目的として調達するものである。

(3) 事業の詳細 仕様書のとおり

2 競争に参加する者に必要な資格

(1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別な理由がある場合に該当する。

新型インフルで伊勢崎市消防本部

オゾン殺菌を導入

短時間で高い効果 救急車や装備品に

新型インフルエンザ対策で伊勢崎市消防本部は1日までに、救急車や装備品の消毒を行うオゾン殺菌システムを県内の消防本部で初めて導入した。従来よりも短時間で100%に近い殺菌ができるほか、防護服の殺菌も行え、再利用が可能になる。流行時には多くの患者を素早く搬送する必要があり、市消防本部は迅速的確な救急出動のために活用したいとしている。

迅速な出動に期待

感染症患者を搬送したときなどはこれまで、救急車内や装備品を薬剤で薫蒸したり、ふいたりし、紫外線照射を行っていた。だが、ふき残す可能性があることや、紫外線の陰になる部分は殺菌できなかったり、作

業に1時間以上かかったりするなどの問題点があった。新たに導入した殺菌システムは、オゾン発生器とオゾン水生成器、オゾンガスモニターなどからなる。伊勢崎消防署(同市今泉町)に

消毒室を設けて配備した。出動した救急隊員がオゾンガスを充滿させた部屋に入り、オゾン水で手洗いするなどして全身殺菌する。救急車内にはオゾン発生器を持ち込んで殺菌する。20分ほどで100%近くを殺菌できる。電気だけを動かせ、薬剤なども不要。防護服も殺菌できるため、再利用が可能となる。新型インフルエンザに限らず、結核菌や黄色ブドウ球菌などほとんどの細菌やウイルスに対応できるとい

伊勢崎市消防本部が導入したオゾン発生器(左)とオゾン水生成器



桐生市の旧郷土資料展示ホール敷地

解体後 453万

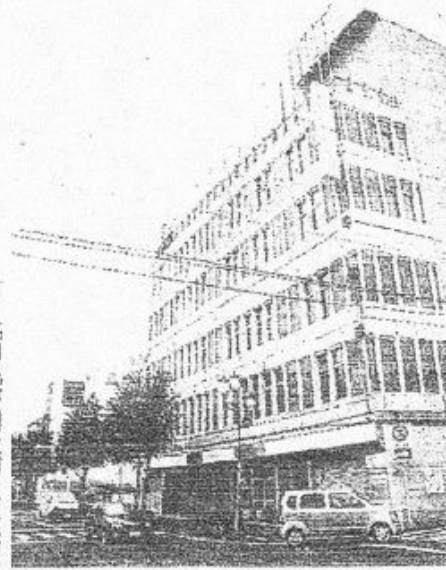
売却先が桐生ガスに決まった旧郷土資料展示ホール

桐生市は1日までに、老朽化により閉鎖した「郷土資料展示ホール」(同市本町)の敷地の売却対象者を桐生ガス(同市仲町、塚越紀隆社長)に決めた。建物躯体が条件で、売却額は453万2千円。同社は同ホールの隣接地でショールームなどを備えた桐生ガスプラザを運営しているが、利用方法はこれから検討するとしている。

市財政課などによると、同ホールの建物は1969年に建設された鉄筋コンクリート地上5階地下1階で、敷地面積は約5555平方メートル。市中心街にあり、地元商店街が商業施設として建設、一時デパートが営業していたが、89年までに市の所有となった。89年に同ホールが開設され、作品展などに利用されたが、老朽化が著しく、耐震面での問題もあったことから3月末で閉鎖された。

建物解体に6千万円程度が見込まれ、耐震改修によ

全国では大阪府の富田林市消防本部や埼玉県狭山市消防本部などで導入されている。



る利用も困難と判断した市は、取得希望者に1年以内の取り壊し条件を付けて売却することにした。7月に公募したところ、市内の2社から応募があり、審査の結果、同社に決定した。今月中旬にも市と同社が契約を結ぶことになる。

同社は「中心部であり、(ガスプラザに)隣接しているため利用価値があると考えている。具体的な利用方法はこれから検討していきたい」としている。

化学療法センター開所

がん診療の機能そろそろ

伊勢崎市民病院

伊勢崎市が運営する市民病院の本館増築工事が終わり、1日、薬剤投与によりがん治療を行う外来化学療法センターがオープンした。今年4月に開設された緩和ケア病棟、9月24日に運用が始まった内視鏡センターと合わせてがん診療の設備・機能がそろった。

外来化学療法センターと内視鏡センターは、増築された本館の1階に入った。鉄骨コンクリート床面積は1万4千平方メートル、工事費は約1億5千万円。これまでなかったがんの機能を一カ所に集めたのが、切り返し、悪さを図る。

一方の内視鏡は、ブライバ、内視鏡室5室などを整備。系がんの検診している。

両センターは、厚生労働省認定されたがん診療院としての機能

